

## 1 演習名 産業発展論(川端)演習

## 2 テーマ

ケース・スタディで見る企業と産業のダイナミズム。産業発展論(Industrial Development)は、時間の経過に即した産業の変化を取り扱う科目です。

## 3 テキスト

まず産業研究の方法と現代経済の基礎知識について、難しくないテキストで学びます。未定ですが、決まり次第ホームページで発表します。

## 4 趣旨

\* 産業経済の分析力を身につけよう：様々な地域の様々な産業を取り扱います。昨年度の演習論文テーマは、不動産投資信託における利益相反、セブンイレブンの経営でした。

\* フィールド調査に出かけよう：NEC パーソナルプロダクツ、日産自動車、JFE スチールなど様々な企業を訪問しています。

\* OB・OGと交流しよう：前任教授時代から30年以上続くOB・OG会があり、「現代産業研究会」を行っています。2005年度の特別企画は「ベンチャー創業セミナー」、2006年度は「サマーセミナー：日本経済 再生への道程」で、ベンチャーキャピタルやベンチャー企業の社長を含む卒業生が講演しました。

5 募集人員 9名。10名に満たない分だけ、編入学者と10月進級者も受け入れます。

## 6 参加条件

無断欠席を絶対にしないこと。工場見学等の課外授業に参加すること。オフィスソフトをそこそこ使えて、パソコンのメールアドレスを持つこと。ゼミに入ってからでもまにあいます。2008年度「企業論」も受講すること。経済数学は必要ありませんが、文章を読む力と現実の社会・経済問題にとりくむ姿勢が必要です。

7 選考方法(4月進級予定者) 希望者が9名を超える場合のみ選抜を行います。

## 8 運営方針

\*ゼミの進め方は二つのパターンがあります。 テキストの輪読。レポーターが報告し、全員で議論します。 各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論する。  
\*調査記録・研究報告や演習論文をゼミ誌『研究調査シリーズ』に発行します。発行記録はホームページを参照。学生の研究計画に書籍・機材等を支援します

## 9 担当教員の主要な研究業績

著書:川端『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』(ミネルヴァ書房、2005年)、大野健一・川端編著『ベトナムの工業化戦略』(日本評論社、2003年)、 翻訳:W. アダムス&J. ブロック『現代アメリカ産業論 第10版』(共訳:創風社、2002年)など。 対外活動:国際協力機構(JICA)のベトナム市場経済化・工業化支援プロジェクト、アジア経済研究所「アジアにおける鉄鋼産業の発展と変容」研究会委員など。

## 10 指導教員が薦める本

2月に打ち合わせを行い、春休みのレポート課題を出します。

最近使ったゼミテキストを紹介します。藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、2003年。土屋勉男ほか『アジア自動車産業の実力』ダイヤモンド社、2006年。丸川知雄ほか『メイド・イン・シャンハイ』岩波書店、2005年。宮本光晴『企業システムの経済学』新世社。南亮進『日本の経済発展(第3版)』東洋経済新報社。植草益総編集『日本の産業システム』2・3巻、NTT出版。

## 11 「ゼミ見学」の可否

歓迎します。14時40分までに第15演習室に来てください。

## 12 10月進級者に対する特記事項 とくにありません。

## 13 その他

ホームページ(学部ホームページから、またはGoogle等で氏名検索すればすぐ見つかります)を見て、自分の関心とゼミの予想される内容をよく照らし合わせてください。メールによる問い合わせも受け付けます。アドレスは以下の通り。

kawabata@econ.tohoku.ac.jp